

## 第5章 芸術文化振興プランの推進体制

### 1 推進体制

#### (1) 区の推進体制の強化

区は、様々な立場の区民一人一人が芸術文化に親しみ、触れる機会をもてるよう、芸術文化施設における事業にとどまらず、教育の場や地域生活の場も含めた総合的な事業展開を図ります。

本計画の中核的な推進主体として、目黒区に加えて、目黒区美術館及びめぐろパーシモンホールの運営主体である公益財団法人目黒区芸術文化振興財団を位置づけ、お互いが連携しながら、企画立案から事業実施、評価に至るまでの一連のプロセスを担います。

#### (2) 区役所内における横断的な連携の推進

芸術文化施策の推進にあたっては、文化行政を所管する部門のみならず、産業、観光、商業振興、まちづくり、福祉、教育等の関係部門と連携し、各分野の資源や専門性を活かした横断的な取組を進めます。これにより、芸術文化を基軸とした地域の課題解決や価値創出を図ります。

#### (3) 関係主体による協議の場の設置

行政、区立文化施設、地域の芸術文化活動団体、教育機関、福祉団体、民間企業等、芸術文化に関わる多様な関係者が、継続的に連携・協働できる仕組みを構築します。

その具体的な手段として、区に関わる既存のプラットフォームにおいて芸術文化を重点的なテーマとして取り扱うなど、定期的な情報共有・意見交換できる協議の場を設け、将来的には対象となる主体を広げていくことを検討します。

#### (4) 多様な資金調達手段の確保

資金調達は、行政が主たる役割を担うことを前提としつつ、公共予算のみに依存しない持続的な事業運営を実現するため、民間企業・団体との協賛・寄付のほか、ふるさと納税やクラウドファンディング等 ICT を活用した資金調達手段についても検討し、多様な財源の確保を目指します。

これにより、区民や民間事業者の参画意識の醸成とともに、新たなパートナーシップによる事業展開の可能性を広げていきます。

## 2 進捗管理と評価

本計画の着実な推進のためには、実施状況を的確に把握し、必要に応じて計画を柔軟に見直す仕組みが不可欠です。計画の効果と実効性を高めるため、以下のような進捗管理と評価の仕組みを構築します。

### (1) 成果指標に基づく進捗管理

各施策の推進にあたっては、設定された成果指標をもとに、進捗状況を定期的に確認し、取組の達成度を可視化します。

評価にあたっては、単に指標の数値が達成されたか否かにとどまらず、その達成状況の背景や要因についても分析を行い、施策の実効性や課題を多面的に捉えることで、区民への説明責任を果たすとともに、今後の改善や計画の見直しに役立てます。

### (2) 庁内における横断的な情報共有

関係部門が施策の実施状況を共有できるよう、庁内において横断的な情報共有の場を設け、進捗状況を総合的に把握します。文化、教育、福祉、観光、まちづくり等多岐にわたる関連部門が連携することで、より広範な視点から評価を行うだけでなく、評価後の施策連携のあり方について検討を行う体制を構築します。

### (3) 計画の見直し

施行後は、必要に応じて見直しを行うことを検討します。

見直しに当たっては、社会経済情勢の変化や区民のニーズ、国等の文化政策の動向等を踏まえ、適切な施策を展開できるよう計画の持続的改善に努めます。